

# 事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	グラウンドワークによる公園整備事業			事業コード	2405
所属コード	092000	課等名	公園みどり課	係名	花と緑のまちづくり担当
課長名	及川直文	担当者名	美濃部計久	内線番号	7270
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

## 1 事務事業の基本情報

(1) 概要 (旧総合計画体系における位置づけ)

総合計画 体系 (旧)	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	うるおいのある公園・街路樹の確保	コード	4
	基本事業	スペースの確保	コード	1
予算費目名 (H26)	一般会計 8 款 4 項 7 目 都市公園整備事業 (補助) (001-01)			
特記事項 (H26)				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 11 年度	
根拠法令等 (H26)				

(2) 事務事業の概要

専門家や行政等のアドバイスを受けながら、グラウンドワークと呼ばれる手法を用いて、地域の住民が自ら地域の公園の計画策定から整備まで参画し進めていく事業。

(3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

市内には、幼児公園やグリーンプロット等の小公園が約 250 箇所あるが、少子高齢化により公園利用者が減少し、荒れるままになっている状況のものや、約 20 箇所の未開設公園があり、公園のリニューアルや整備が課題となっているが、厳しい財政状況により整備が進捗しない状況にある。そのため、一部の地区において地元住民や企業等による公園整備が動き出し、平成 11 年度より市との協働により取り組んでいる。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

グラウンドワーク手法による公園の再整備や維持管理を通し、地元住民のコミュニケーションも深まり、地域の活性化に繋がっている。

## 2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が、何が対象か)

街区公園 (幼児・児童公園), 住民

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 見込み	26年度 実績
A 開設街区公園数	箇所	404	410	418	418	420
B 町内会総数	組織	374	374	377	377	383
C						

(3) 26年度に実施した主な活動・手順

平成26年度は事業費の財源として見込んでいた国費について、確保できなかったため、グラウンドワークによる新規公園整備は実施できなかった。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 目標値	26年度 実績
A グラウンドワークによる整備公園数	箇所	1	2	1	1	0
B グラウンドワークに取り組んだ町内会数	組織	1	2	1	1	0
C ワークショップ開催回数	回	11	6	4	6	0

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

地域住民が利用したくなるような公園に整備し、また維持管理を適切に行えるような地域の体制を作る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 目標値	26年度 実績
A グラウンドワークによる整備公園数（累計）	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	箇所	13	15	16	17	16
B グラウンドワークに取り組んだ町内会数（累計）	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	組織	9	10	11	12	11
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 計画	26年度 実績
事業費	①国	千円	2,750	2,429	2,562	2,500	0
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	2,400	2,100	2,300	2,200	0
	④一般財源	千円	353	330	363	300	0
	⑤その他( )	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	5,503	4,859	5,225	5,000	0
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	200	200	200	200	0
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	800	800	800	800	0
計	トータルコスト A+B	千円	6,303	5,659	6,025	5,800	0
備考							

3 事務事業の評価 (See) . . . . .

(1) 必要性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：整備が必要な公園を、地元住民や企業等の協力を得て整備し、公園の利用促進と適正な維持管理を図るものである。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：公園自体は盛岡市の所有であり、その整備について地元住民や企業等の協力を得ながら行なうものである。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である。

理由：本事業は、地元住民と協働して実施するものであり、地元住民が主に利用し、維持管理も行っている小規模公園（街区公園）を対象としている。それ以上の大規模公園は地元住民だけでは維持管理も困難であり、本事業にそぐわない。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

その内容：公園の再整備や未開設公園の整備が停滞し、公共空間として活用されなくなるおそれがある。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

向上の余地がある。

理由：本事業の周知を徹底し、地元に対して実施に向けた機運を高めることにより、グラウンドワークによる整備箇所が増加が見込める。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

- ・受益機会の適正化余地

公正・公平である。

理由：整備箇所の選定にあたっては、施設の経年劣化の度合いから再整備が必要になっている公園について優先度や地元の意向を考慮し選定している。

- ・費用負担の適正化余地

特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

- ・事業費の削減余地

削減できない。

理由：地元住民、企業の協力を得て、最低限の予算で実施している。

- ・人件費の削減余地

削減できない。

理由：コーディネーターとして職員の派遣が不可欠であり、事業が促進されることに伴い人員も必要となる。

4 事務事業の改革案 (Plan) . . . . .

(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	都市基盤施設の維持・強化	コード	26
	小施策（推進項目）	都市公園の整備と利用促進	コード	3

(2) 改革改善の方向性

将来にわたって、快適で安らぎのある公園施設を市民に提供していくためには、公園施設について適正な維持管理や定期的な改築整備による長寿命化を図っていく必要がある。限られた予算の中で効率的な整備を行うため、グラウンドワーク手法は有効な整備手段であり、計画的な予算確保に加え、市内の町内会等に対し本事業の周知を徹底し、グラウンドワークによる整備箇所の増加に努める。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

事業費の確保が課題であり、国や県の補助制度などを活用し財源確保に努めていく。

5 課長意見 . . . . .

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

開設年度の古い再整備の必要な公園や、未開設公園も多いことから、予算確保が難しい状況のなか有効な整備手法である。住民、企業等の連携が不可欠であり今後とも市からの積極的な働きかけも検討していく必要がある。